

平成25年度 第5回奈良県営競輪あり方検討委員会 議事録（要約版）

I 開催日時

平成25年 9月11日（水）午前10時00分～12時00分

II 開催場所

奈良県営競輪場 飛天交流館2階

III 出席者

委員：粕井委員(委員長)、石黒委員、里見委員、岡村委員(欠席：松岡委員)

事務局：中産業・雇用振興部長、

地域産業課 大月課長、田中課長補佐、佐藤係長、飯田主査

奈良競輪場 加藤場長、米田次長、仲澤課長、小山田課長

IV 議 事

1 産業・雇用振興部長挨拶

委員の皆さま方には、公私何かとお忙しい中にもかかわらずお集まりいただいたことを、心からお礼申し上げます。

昨年9月の第1回あり方検討委員会から、これまで4回にわたってご議論をいただいた。特に5月31日の第4回の開催においては、中間報告（案）について熱心に審議をいただいたところである。

6月14日には粕井委員長から県へ中間報告の提出をいただいた。県ではこの中間報告を受けて、経営改善の取組みを進めており、また、包括外部委託の導入に向けて現在作業を進めているところである。

本日は、今年度の現時点における車券売上の状況等について説明させていただくとともに、新たな経営改善策の取組み状況、また包括外部委託の導入に向けた状況、競輪界全体の動向などについて説明をさせていただくとともに、委員の皆さまからの様々な見地からのご意見をいただく機会としたい。よろしく申し上げます。

2 議題

～事務局より資料に基づき説明

田中課長補佐

1 車券売上状況及び経営改善策の取組み状況

(1) 平成25年度 奈良競輪の売上状況

昨年度大きな売上があったGⅢ春日賞は、来年1月31日から4日間予定している。

また、資料では4月から7月のこの4ヶ月間の売上状況についてまとめている。まずFⅠの方を見ていただくと、この3ヶ月間を平均すると昨年度の2倍強となっている。これは西日本カップの影響が非常に大き

く、これを除いた青垣賞、まほろば賞の平均売上を比較した場合であっても今年は4億1千万円ということで、昨年度と比較して14%ほど増えているという状況である。理由として考えられることは、営業努力により、今まで売ってもらっていないところで売っていただいたこともあるのではないかと考えている。

次に、FⅡの1節あたり売上を昨年度と比較すると、これも4.5%ほどの増となっている。これも先ほどと同じくサテライトの方においてお願いして受けていただいたというのが要因と考えている。ただ本場売上だけを見ると、昨年と比べ約17%の減となっている。

このように、FⅠ、FⅡについては、昨年度と比べて増加しているということで、順調な滑り出しと考えている。

(2) 平成25年度 全国の売上状況

4月から7月までの統計データを掲載しているが、グレード毎に昨年度と比較した場合、ほぼ同額で若干落ち気味となっている。1節あたりの売上比較では、GⅢは97%、FⅠは若干増えているが、FⅡは大きく減っているという状況である。

またGⅢについて全国競輪場毎の売上を昨年度と比較したが、現時点の平均は62億9千万円である。前回のあり方検討委員会では、他の公営競技、競馬や競艇は若干回復気味であり、競輪も下げ止まりの傾向が見られると説明したが、競輪は依然として厳しい状況にあると言える。

(3) 平成25年度ガールズケイリンの状況

今年度は6月にガールズケイリンを開催し、前年度と比較すると、売上・入場者数とも若干減り気味であったが、ただガールズケイリン売上シェアということでみると、通常の12レース中2レースということで、レース数のシェアでは16.7%であるところ、売上のシェアでは21.8%を占めている。

ガールズケイリンが売上そのものに直結するとまで言えないが、これまで競輪場に足を運んだことのないお客さんにも来ていただいております、競輪場の方で何人かの方に聞き取り調査を行った。競輪場の印象として「きれいでない」、「活気がない」等その他の意見も含めて資料で紹介させていただいている。

またガールズケイリンの売上の全国の状況であるが、上位を占める競輪場は、ジャパンカップという特別なレースの中で開催したり、ナイター競輪として開催しているところが多い。ただし、通常のFⅡ開催の中でも奈良競輪は下位の方で、ほとんどの競輪場が土曜日・日曜日の両方を開催に含めているのに対し、当場は土曜日・日曜日の両方を日程に入れられなかったのが、売上が伸びなかったひとつの原因と考えている。

ガールズケイリンの今後の予定であるが、下半期についても募集があり、奈良競輪の努力もあって10月、3月の2回の開催が決定し、どちらも土曜日・日曜日を含む日程を確保できた。また、後で説明する県職

員アンケート回答者の招待も考えており、24年度と比べて6月は売上が少し落ちているが、10月・3月は頑張っていきたいと思っている。

(4) 新規ファン獲得に向けたアイデア

奈良競輪においてこれからどんな取組みをしていけるかということで、いろいろな意見を聞くのが重要だと考え、7月に、県庁職員に対して一斉メールでアンケートとアイデアの募集をした。300人を超える職員から回答があり、その結果についてまとめている。

まず奈良競輪への来場回数について、「ない」という方が7割～8割を占め、中でも女性は85.9%、若年層に関しては88.4%という率になっている。

次に奈良競輪に来たことがない理由については、「興味なし」、「ギャンブルはいや」というのが目立った。特に女性では60%を超える方が「興味がない」という状況であった。

「競輪以外の公営競技にいったことがあるか」という問いには、予想どおり競馬場の比率が高かった。また奈良競輪のイメージは、「古い」、「汚い」、「マナーが良くない」、「高齢者が多い」、「女性が行きにくい」等がまんべんなくあった。その他の意見としては、「ガールズケイリンで以前より雰囲気良くなった」とか、「昭和の雰囲気がいい」というイメージを持っている職員もいた。

また、新しいお客さんを獲得するためのアイデアもまとめている。「全国ゆるきゃら自転車競走」や、応募してくれる女性がいるかどうか疑問もあるが「県庁女性職員によるユニット」、その他「動物とのふれあいイベント」等があり、ユニークなものとしては「依存症問題に関するシンポジウムの開催」や、「競輪漫画を描いて漫画喫茶化」あるいは「ラジコンカーレースの開催」などがあった。もちろん設備の都合等すべてができるというものではないが、これらのアイデアを活かして、今年度からできることを頑張っていきたいと思っている。

なお、奈良へ来られる外国人観光客をターゲットとした取組みについて、競輪場の米田次長から説明させていただく。

米田次長

競輪ビギナー向けのリーフレットを、英語、ハングル語等4カ国語で、県の国際観光課に依頼して作成した。

また、競輪場では来場者に対し出走表というリーフレットを渡しており、競争成績だとかレースに関するデータが詳細に掲載されているのだが、すべて日本語で書かれているので外国人には何が書かれているかまったくわからない。そこで、易しく解説した出走表翻訳リーフレットを外国語で作成した。それぞれ出走表と照らし合わせて見ることで、それぞれの言葉で意味が分かるような仕組みである。この試みは全国では初めてと思われる。ぜひ外国人観光客の方に来ていただき、心の通った丁寧な対応をしていきたいと考えている。

また、場内表示とか、ホームページに、外国人向けの工夫をいろいろしていきたい。これについては国際観光課の国際交流員が来場してアドバイスしてもらえることになった。この施設が外国人向けに親切な施設であるのかどうかチェックし、助言していただく。この機会を利用して、できるだけこの施設を工夫していきたい。また競輪場には若手職員もいるので、いろいろアイデアを出してもらい、もっと活気ある場に変えていきたい。

2 包括外部委託導入に向けた状況

田中補佐

6月14日、委員長から中間報告の提出をいただき、6月27日の県議会では知事が答弁を行った。

「あり方検討委員会において包括外部委託の検討がなされ、それを導入すれば累積赤字の解消が見込まれ、一般会計への繰出しにより県財政に貢献できる可能性が提示された。これを受けて県では、包括外部委託を行う場合の具体的な業務範囲、導入後の業務体制見直し、県職員の配置など、今後詳細に検討してまいりたい」という内容である。これを受ける形で7月から、包括外部委託の業務範囲の詳細な検討を事務局で行った。

中間報告では概ね9千万円程度の節減が見込めると委員会では報告したが、再度平成24年度決算ベースでシミュレーションした結果、1億円程度の節減効果があるとみている。業務体制については、県職員配置について詳細な検討を行ったところ。

次に、9月9日、県議会の経済労働委員会で、包括外部委託導入に伴う債務負担行為についての説明をさせていただいた。

この債務負担行為に係る業務範囲を簡単な表にまとめている。現行の車券発売業務やファンサービス等を包括外部委託に移し、約4億7千5百万円の部分が、包括委託により約4億1千4百万円となり、節減効果が約6千百万円となる。これを棒グラフにすると、職員人件費約9千3百万円が約5千2百万円となり、あと従事員さんの業務、個別事業者の業務をまとめると、消費税5%という想定で、3億6千2百万円の委託料となり、繰り返しになるが節減効果が約6千万円となる。

これは本場開催分だけで、あと受託場外収入があり、包括外部委託による経費を節減で私どもの取り分が増えるということになり、その分を含めると、約1億円ということになる。

次に、シミュレーションであるが、払戻率75%で行っている。

包括外部委託を導入しない場合、平成25年度は西日本カップの影響や経営努力、開催日数の削減等から若干黒字になるが、その後は、春日賞は2%減、F I・F IIは10%減という仮定のもとで、累積赤字が膨らんでいくというのがシミュレーション結果である。

一方で包括外部委託を導入する場合、平成28年度には累積赤字がなくなる可能性があるとなっている。なお、包括外部委託を受ける業者の方も1年限りではペイしないということで、複数年度で契約を行いたい意向である。全国14場ほどで包括外部委託が導入されているが、契約期間は3年から5年、あるいは7年となっている。

奈良競輪の場合は、3年間の包括外部委託契約を締結予定であるが、これを今年度中に手続きということになると、先の年度の複数年契約となるため、地方自治法上債務負担行為の設定が必要であり、平成26年度から28年度まで11億2千7百万円余りの債務負担行為の議決をいただくことを予定している。なお、この額は消費税を勘案して算定したものである。

今後の予定については、県議会の本会議で9月17日から10月7日の間、審議いただくことになっており、それと並行して、プロポーザルのための仕様書、公募要領等の事務的な検討も進めていき、県議会で承認がいただければ、10月中旬頃にはプロポーザルの公募を開始し、現地説明会あるいは業者の方から見積書等出していただき、現時点であるが11月下旬頃には審査会、12月以降に契約、その後現在の業者との事業引継等を経て、来年4月1日から包括外部委託開始、県の職員体制も縮小ということで新業務体制の開始となる。

次に、従事員組合との協議状況であるが、中間報告の中でも雇用確保の視点についても十分に踏まえることという記述があり、このため包括外部委託導入後、再雇用を希望する者が全員雇用されるよう配慮していきたいと考えている。

なお委託後の雇用条件については、現在従事員組合と協議中である。

3 競輪界の動向

(1) 車券払戻率の動向

平成24年の法律改正により、払戻率を70%に下げることが可能になったが、現時点では依然として75%のまま継続予定であり、全国の協議会の方でプロジェクトチームを組み、議論を行っている。

- ・ 競輪場ごと、賭式ごとに対応できるようシステム改修を行い、平成26年3月には完了する見込み。
- ・ 改修費用については、全国施行者協議会の基金で負担。
- ・ 次回開催は9月を予定。

(2) 開催日数の削減動向

前回中間報告の中でも少し触れたが、売上が減少することに伴い選手の数も減ってきている。選手の数が増えればレース数も減るということで、これまで1日12レースであったのが11レースになり、FⅡの場合は10レースということで、1日あたりのレース数を減らすという形でこれまで進んできていた。さらに、この10月から、全国44場のうち31場で、FⅡが3日間削減されることになった。

なお、中間報告でも説明させていただいたとおり、1日あたりのレース数が減少しても、なかなか経費の削減に結びつかないが、開催そのものが3日間なくなる場合は、試算ではあるが約2千万円収支改善することになる。逆に言うとFⅡクラスでは、3日間では2千万円以上の赤字が出ていることになる。

表でみると、昨年度のFⅡの平均1億円の収入に対して、経費1億2千万円程度、平均的に2千万円以上の赤字を解消できることになり、開催しないことで収支が改善されるということになる。

鮎井委員長： ありがとうございます。今議題の1から3について、資料も交えて事務局より詳細な説明がありましたが、この内容について質問、意見等はありませんか。

岡村委員： 資料を読ませてもらい、ずいぶん考えていろいろやっていたいると思っている。

石黒委員： 今のFⅡクラスの開催日数を減らすことによって収支を改善されるということは、もともと不採算部門だったということ。

逆に言うとこれまで不採算部門が一定日数確保されて、維持されてきたというのは、こういう下のクラスのレースを実施することによって、その上のクラスへ選手がこれを踏み台に育っていくとか、全体の選手層の構造上やらざるを得なかったというところがあるのか。それとも単純に不採算部門でしかなく、少し減らせた方が競輪界全体にとっても長期的に良いことなのか。

加藤場長： もともと本場開催というのは月2節、6日、それが毎月1回年12回で、年間72日開催という時代が全国の競輪場で続いていた。

しかし、昨今は不採算部門である本場開催の節数が削減される傾向にあり、平成24年度現在、年間58日開催となっている。これを平成25年度の下半期で全国43の競輪場の内、31競輪場が1節・3日間の開催日を削減するということが決まり、奈良競輪場もこれに該当する競輪場として、平成25年度は3日減の年間55日開催となった。

里見委員： これから包括外部委託の導入に向けて、公募、選定等していくことになると思うが、その選定の審査委員会の方で具体的な選定基準の方は決められるのか。その時に、単に競輪施行の経費節減提案だけではなく、競輪場の発展に寄与するような提案を出していただけるようなところを選定基準に是非盛り込んでいただきたい。

田中補佐： 中間報告の中に書かれているが、包括外部委託導入については当然経費節減という面はあるが、民間ノウハウをいただくことで、新たなお客さん獲得に向けた新たな取組みも期待できる。

実際、包括外部委託を導入している他場では、いろんな新しい取組みがなされている例があり、審査の中では単に経費の部分だけではなく、新たな取組みについても見ていくことになる。

現時点で具体的な審査基準について検討中で、まだお話しできる段階ではないが、考え方としては単なる経費節減ではないということは意識して進めていきたいと思っている。

鮎井委員長： 資料もを見せていただいたが、本当にたいへんなご努力をいただいていると思う。

この県の職員にアンケートをとって意見を聞いたというのは画期的なことではないかと思う。どうしても競輪場に関わっている職員中心に取り組んでいくというのが今までのやり方であったが、やはり広く意見を求めていく姿勢、それも県の他の部署の職員に聞かれたということは、すばらしいやり方だろうと思う。

アンケートにあるように、「設備として古い」、「きたない」とかいう問題点は、私も何度か競輪場内を見学したが、全く同じ認識である。

特に来場者の増加策ということを考えるときに、若者、子どもを集客のターゲットと仮定すると、北西部の食堂の裏側に遊園地が残されているが、開場当時からそのまま放置されており、遊園地として機能していない。例えばサービス業種の店舗へ行くと子ども用のコーナーがあって、部屋の中で楽しく遊べる場所も併せ持っているので、競輪場の設備の充実の時期には、例えば耐震補強を工事する際など、来場者を増やすという視点から検討していただきたい。

次に、説明の中で、場外売場の増加策が売上に大きく貢献しているという話があった。これは開催日・節ごとに契約するのか、それとも年間通してなのか、教えていただきたい。

加藤場長： 来年1月末から開催する春日賞というGⅢのレースについては、ほぼ全国の競輪場で4日間売っていただく。この場合、開催4日間を単位として他の競輪場、施行者毎に契約を締結することになる。

逆に他の競輪場のGⅢを奈良競輪場で発売する場合も、開催4日間を単位として開催競輪場との契約を締結する。

米田次長： 春日賞の場合は43の競輪場ほぼ全部と契約するとともに、全国66の場外車券売場であるサテライトとも契約を結ぶ予定である。

田中補佐： 補足であるが、FⅠというクラスでも奈良の開催については、近畿の各場で売っていただく。また、近畿以外のところでも営業努力をして条件を整えば、売っていただくこともある。

鮎井委員長： それなりの効果が出ているということで、また、努力によって車券の売上げを伸ばしていく余地もあるということですね。

大月課長： 委員長が、最初におっしゃった新たな設備改修、投資については、奈良競輪場の観客数・売上げが減り、赤字が継続しているという中で、なかなか新しい投資ができなかったのが正直なところ。しかし、包括外部委託を導入した後は、収支を見ながら耐震補強も含めて検討をしていきたい。

鮎井委員長： 私が若かった頃、業務で競輪場訪れた経験はあるが、あり方検討委員

の委嘱を受け、ガールズケイリン開催時など何回か奈良競輪場に来ることになった。当初私は車券の買い方もわからず、そんな中、東の入り口の付近に初心者ガイダンスコーナーという部屋があり、担当の女性が車券の購入方法を親切・丁寧に教えていただく機会があった。競輪に興味、関心を一般の方に持っていただくためには、競輪の啓蒙が必要で、競輪場にお越しになる初心者に対して、こういう形でやさしく解説していただけるとするのは良いことだと思う。こういう努力の積み重ねが、競輪愛好者を増加させるために大切と感じている。

次に、包括外部委託導入について、最終的に債務負担行為という形で進めている中で、県議会で承認を得る手続きを進めていると報告があった。9月の経済労働委員会で債務負担行為について説明した際に、議員側から特別な意見等はなかったのか。

中部長 : ご承知のとおり、事業というのは、予算が成立しないとその後のいろいろな手続が進まない。今回の場合には、予算案の説明と併せて競輪場のあり方などの説明を行い、それに対するご意見を経済労働委員会においていただいたが、「予算案は了解した。ぜひ進めていきなさい」という意見もあれば、逆の意見をおっしゃる方もいらっしゃるのが正直なところである。

競輪場の合理的な運営を目指して我々もいろいろ検討した中で、今回ひとつの考え方として、包括外部委託を導入することによって、まずは経営改善を実現していく。そうしないと、経営改善ができない場合は、存続の可否まで問うことになる、議会で説明させていただいた。これに対し、経済労働委員会の委員の方からいろいろな意見は承ったが、この予算案の是非を問うというような意見は頂戴していない。

今後また本会議等が9月17日以降に始まるので、その中でまたいろいろな意見を頂戴するかもわからないが、現状としては今申し上げたとおりの状態である。

粕井委員長 : 了解した。最後に9月以降のスケジュールを示していただいているが、プロポーザルによる公募では、具体的に検討いただいている会社はあるのか。あまり時間もないので、具体的個別にでなくても結構だが、業者選定へどのように努力されているか教えてほしい。

加藤場長 : 包括外部委託する競輪場の業務はとても多く、140以上の業務があるが、委託する範囲を整理している。また、実際に包括外部委託をされている競輪場の実績や、実際に受託している業者名は把握しており、業者側からもいろいろな営業活動もあり、公募の準備をしている。

粕井委員長 : 了解した。

岡村委員 : ガールズケイリン選手は、競輪選手全体の中で何%を占めているのか。また、女性の職業としてのガールズケイリン選手というのは、魅力的な職業なのだろうか。女性のライフサイクルにとって、若い頃には選手として働き、適度な頃に辞めて家庭に入るということは考えられるだろ

うか。というのは、もし、競輪選手の半分くらいが女性になったら、環境も良くなるのではないかと。ギャンブル色が少し薄いショービジネス化してくるのではないだろうか。

女性の競輪選手というのが、職業として魅力的であれば、若いうちに競輪選手として稼ぎ、その後体力も落ちてくる頃に家庭に入るというのは、女性のライフサイクルとしては結構悪くないのではないと思う。

加藤場長 : ガールズケイリンは、去年の7月に最初の選手がデビューし、第1期生が33名、今年7月に2期生がデビューし、現在は合計51名である。ただし、男子の競輪選手全体からみると、女子選手は1パーセント台である。年収については、まだ平均を把握していない。

岡村委員 : たとえばAKB48と比べてどうでしょう。女性の立場から職業的に比較すると、そういう感覚になると思う。

加藤場長 : ガールズ競輪の賞金は男子と体系が異なることもあり一概には言えないが、強い選手がいる一方で、デビューしてなかなか勝てない選手もあり、実力の差が大きい世界ではないかと思っている。

通常、月に2節・6日間出場するが、下位の選手の場合で20万円程度と思う。もちろん強い選手ならそこに賞金が加算されていく。

中部長 : 岡村委員のおっしゃった女性の職業としてどうかということだが、今回ガールズケイリン選手51名の中には、出産後子育てをしながら活躍している方や高校を出て間もない若い選手もいる。そういった幅広い背景を持つ女性が選手として活躍している。

結婚している選手については、当然配偶者の理解を得た上で、プロの競輪選手としてやっている。このことは、ガールズケイリンがひとつの職業として成り立つ部分を持っているからではないかと理解している。

ただ先ほど申し上げたように年収ベースでみたら、本当にどれくらいの額が確保されているのかなというのは、ちょっとまだ年間通じた統計がないのでわからず、職業としてのガールズケイリンは未知数のところはあるが、収入が魅力的であれば、岡村委員がおっしゃったように競輪界の例えば半分が女性選手となり、また競輪を盛り上げている起爆的には十分なり得るかもしれない。

また、ボートレースだったら男性も女性も同じレースに出ている。体力だけで競い合うことのない競技では、男性、女性の混合したレースは成り立つのかもしれない。しかし、競輪は体力で勝負する部分が非常に大きく、男性と女性が混合で競争することは、今は現実的でないと思う。

今後、女性選手の活躍で裾野が広がり、体力的にも問題がなくなれば、男性と女性が同じレースに出ることも可能となるのではないか。その時は魅力的な職業として成り立つ可能性は、十分秘めていると思う。

糸井委員長 : 先日、テレビで競輪学校での地獄の特訓の坂を登っていく姿や学校生活の様子などを見たが、競輪学校を卒業した選手は、全員がプロ選手として活躍しているのか。

- 加藤場長 : 競輪学校を卒業生は、全員デビューしたと聞いている。
- 粕井委員長 : 競輪学校には何年行かなければならないのか。
- 加藤場長 : 1年間である。
- 中部長 : 1期生の中に、天理大学のホッケーの選手から、競輪学校に入って、今やガールズケイリンの選手で活躍しておられる方もいる。冬季オリンピックのスピードスケート代表選手が、夏季オリンピックの自転車競技代表選手になる例があるが、他のスポーツからガールズケイリンへ転身している事例は多く見られるところ。
- 粕井委員長 : 橋本聖子さんがそうですね。松岡委員の教え子に第1期生の女子競輪選手がおられ、早稲田でサッカーをプレーしていた選手だったそうである。他の競技の学生スポーツ経験者から女子競輪選手が出てくるというのは、ガールズケイリンに魅力を感じるものがあるからではないか。
- 岡村委員 : 自分が結婚してつくづく思ったが、結婚するとお互いの価値観が混合して、すごくいい意味で改善されることが多い。
競輪界の今までの価値観とか倫理観とか諸々のイメージが、女性選手が走ることで全然違う価値観が混ざって変化が生じる。今まで男性社会の価値観で成り立っていた競輪界が、女性が入るともっと綺麗になるなど、改善されるのではないかと思う。だからガールズケイリンが職業として成り立っていけば、すばらしいなと思う。
- 粕井委員長 : 岡村委員がおっしゃっていただいたように、ガールズケイリンはまだ去年始まったばかりで、これから全国的に展開していくという中で、競輪事業の将来性という新しい芽が出てきたということで、受け取ることができると思う。
- 中部長 : 今年度も6月の開催に加えて、10月と3月と合計3回、奈良競輪でガールズケイリンを開催することができるという、これは奈良競輪場にとって絶好の誘客の機会ではないかと捉えている。できるだけこういう機会を通じて競輪の魅力を周知し、積極的に取り組んでいきたいと思う。
- 粕井委員長 : ありがとうございます。事務局から説明いただいた1から3までの議題については、ほぼ意見が出尽くしたと思う。今日の会議は松岡委員が欠席ですが、本日の議題について、事務局が松岡委員の意見を聴取してきていただいていると聞いているので、その内容について発表をお願いします。
- 大月課長 : 松岡委員にこの資料を見ていただき、ご意見を伺ったので、報告させていただく。
「議題の中のファン獲得に向けた県職員に対するアンケート及びアイデアについてであるが、6ページに書かれているアイデアを参考に、包括外部委託に引き継ぐ前、とにかく今年度から県としてできることから取り組んでいくことが大切だと思う。その際にターゲットとしては、儲かるとか儲からないというような視点にこだわる必要がなく、アンケ

ートにもあるように、奈良競輪場に興味がない、来たことがない人がたくさんおられるということで、まずは競輪場へ来ていただくような工夫をして、奈良競輪場の認知を高めていくことが必要である。そういう点から、アイデアの中にある子どもから大人まで、女性や子どもをターゲットにするアイデア、特に子どもをターゲットにしながら、その親を巻き込んでいけるような取組がいいのではないかと思う。また東京では、自転車を楽しむ人が増えてきているように思う。奈良ではそれほどでもないのかもしれないが、自転車愛好家を取り込んでいくような取組を考えられたらいいと思う。」とこういうようなご意見を頂戴した。

鮎井委員長： ありがとうございます。松岡委員からの積極的な意見を報告いただいたが、何か意見はないでしょうか。よろしいでしょうか。
それでは議題4 その他について、事務局の方からお願いします。

～事務局より資料に基づき説明

田中課長補佐

4 その他

代替策の検討については、中間報告でも存廃の方向性という項を設けているが、資料にはその一部を記載している。

読み上げると、「奈良競輪の存廃を議論するうえでは、競輪場という財産の有効活用という視点からの検討が不可欠である。

奈良競輪場というのは、住宅地、文教施設、歴史文化、住みよい住環境、奈良県の特徴をよく表す地域に位置しており、何よりも西大寺駅に近接した立地条件、奈良県の活性化にとってポテンシャルの高い地域である。奈良競輪のあり方を検討するに際しては、このような地域特性を踏まえて、存続させるのが最良の選択かどうかの検討が必要である。」

こういう中間報告をいただき、また、6月県議会でも、知事が「県としても経営改善に向けた取組を着実に実施し、他の有効策についても併せて検討してまいりたいと考えている」と答弁している。

質問された議員は、赤字が続いているが、このまま存続していくのか、他の使い道を考えるべきではないかというご意見であり、これに対する知事の答弁となっている。

続いて読み上げると、「具体的には西大寺周辺のまちづくりなどにも十分に配慮しながら、実現可能性や、経済効果等を調査・検討したい。競輪場としては、存続する場合の経済効果を比較して、この委員会でご議論いただいて、中長期的なあり方について、一定の方向性を見いだしていく」というのが知事の答弁である。

これを受けて、私どもは産業部局では、全部局に対してこの中間報告をお知らせし、競輪場の活用策についての意見紹介を行ったところ。

また、あり方検討委員会の中でも、代替策については委員の皆さま方にもいろいろご意見・アイデアをたくさんいただいているが、これから

もお伺いしていきたいと思う。今後、検討委員会の中でご審議いただき、また事務局の方で整理もして、このあり方委員会で、代替策について一定の方向を出していくためには、やはり抽象的な議論だけではなくて、例えば土地を売却することになるかもしれない、またいろいろな代替アイデアについて、その経済効果などの検証が必要になるかと思っている。

来年度には専門家、鑑定士やコンサル等などの専門家の方にいろいろな分析等いただいて、実現可能性や経済効果等についての検討を行い、あり方検討委員会で代替策についての一定の方向性を見出せるような議論ができるような材料を揃えていきたいと思っている。

鮎井委員長：ありがとうございます。代替策の検討について説明があったが、第2回の委員会でもこのことについて皆さまのいろんな意見をいただいたところですが、今後の方向性ということで提案いただいたので、何か意見はないでしょうか。

岡村委員：もうずいぶん議論を積み重ねてきたので特にはないが、私は奈良県ホッケー協会副会長をしている。南都銀行のホッケーの選手はかなり練習を積んでいるし、日本の中で奈良はかなりホッケーが盛んな県である。そこで、両者ともオリンピック種目でもあり、何らかのハイブリッドが図れないかと思ったりもしている。

石黒委員：特に意見というのはありませんが、すでにこの競輪場というものが存在して、一定の方が雇用されており、また周辺の事業者が商売などで関わっている以上、包括外部委託を導入すると黒字経営を継続できて累積赤字解消していく見込があるというのなら、廃止を前提に物事を必ずしも考える必要はない。むしろ存続前提に考えた方が良いと思う。

ただ、あくまで公営競技というのは、本来地方財政に貢献するという前提で認められるものだから、長期的に県の財政に確実に貢献できるという展望がなければ、代替策の検討もやはりやっておくべきと考える。

そうすると、とりあえず今赤字転落を免れる、累積赤字解消できるといっても、包括外部委託というコストカットによってそれが実現されるというのは、売上が増加して長期的に収益が増えていく見通しがある場合とは、先行きが明るさを考えると、ちょっと違うと思う。

もちろん今テレビ、CMなんかで競輪のCMもわりとメジャーなタレントを使ってイメージアップをはかっているのだから、競馬のように全国的に盛り上がってくる可能性があるのかもしれない。

しかし、もし包括外部委託で、例えば施設自体に何か魅力的な付加価値を付け加えるような提案が出てきて、それで集客が増えていくというような効果ある場合と、代替策でここを別の用途として活用する提案が出てきた場合と、地域の雇用とか商業振興にどんな影響が出るのかというのを勘案して、中長期的な視点で検討する必要があると思う。

里見委員：今のところは、例えば払戻率であったり、消費税の動向であったり、

オリンピックが決まって景気がこれからどうなるのか、不確定要素がとても大きいと思うので、中間報告のとおりとあえずは包括外部委託で収支を改善して、近い将来に不確定要素が確定して結果はでてくるので、それを見ながら今後の課題を詰めていけばよいと思う。

鮎井委員長：ありがとうございます。それではこの件について松岡委員の意見の報告をお願いします。

大月課長：代替策の検討についても松岡委員の意見をいただいているので、報告させていただきます。

「競輪場施設の代替策についてはいろいろなアイデアがあると思うが、やはり県有地であるので、県として意味あることに使っていくのが妥当と考える。具体的には、資料にもある文化施設や観光施設、またスポーツ関連の施設という選択肢もあると思う。

また、県庁の全部局に対して意見照会をしたということであるが、例えばスポーツ施設であるなら、奈良県全体のスポーツ基本計画のようなものを確認され、将来の施設配置計画のようなものがあるなら、そこに競輪場の用地が当てはまるかどうかというふうな視点で、今後事務局で整理されるのもいいのではないか」という意見をいただいている。

鮎井委員長：ありがとうございます。今の松岡委員のご意見に対して、何か意見はないでしょうか。私も松岡委員のご意見に全く同感であって、こういう形で努力を続けていくということではないかと思う。

それではあり方検討委員会の今後のスケジュールについて、説明をお願いします。

大月課長：次回の開催も含めたスケジュールを説明させていただきます。

包括外部委託についてであるが、議会の議決を経て、その後業者選定のための審査会を11月下旬に予定している。現在、審査方法等を検討しているが、業者の決定に際して、あり方検討委員会の委員の方々の意見を、何らかの形で拝聴したいと考えており、その具体的な方法については委員長とご相談させていただく。よろしくお願ひしたい。

次回のあり方検討委員会の開催時期は、今年度の春日賞が平成26年1月31日から2月3日まで4日間開催するので、年間収支に大きく影響する春日賞の売上げの状況を報告できる時点に次の委員会を開催したいと考えている。よろしくお願ひしたい。

鮎井委員長：ありがとうございます。今後のスケジュールによると、包括外部委託業者決定に我々委員も参画できるとなっている。

それでは本日の議題についてすべて終了したので、司会を事務局にお返しする。ありがとうございました。

大月課長：委員長ありがとうございました。委員の皆さま方もご尽力いただきありがとうございました。特に意見等もないようですので、中部長より挨拶いたします。

中部長：長時間にわたり貴重なご意見をいただきありがとうございました。本

日は今年度の売上げ状況、今年度は4月西日本カップの開催により、昨年度と比較して伸びている状況というのはご理解いただいたと思うが、競輪全体の売上がなかなか改善をしていないというのが現状である。

我々としては今日いただいたご意見等勘案しながら、また、松岡委員の方からは改善につながるアイデアで今できるものについては、すぐ取り組めとの意見をいただいた。これを受けて我々も包括外部委託導入だけでなく、経営改善に繋がることで、取り組めるものは積極的に取り組んでいきたい。

特に今日ビギナーズ競輪ガイドとか、こういったものもやりながら、基本的なおもてなし、今オリンピック招致でもあったようにおもてなしという気持ちをもって観客を迎え、その視点で、いろいろな経営改善策に取り組んでいきたいと思っている。

今回は1月下旬から2月にかけてということで先ほど説明させていただいているので、それまでに委員の皆様としてのご意見等をまとめていただければ、我々としては真摯に取り組んでいきたいと考えている。

それではこれで第5回目の委員会を終わらせていただきます。本日はありがとうございました。

以上